

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901795		
法人名	特定非営利活動法人 ぶどうの木		
事業所名	グループホーム ぶどうの木		
所在地	旭川市忠和7条3丁目4番31号		
自己評価作成日	平成28年1月17日	評価結果市町村受理日	平成28年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく過ごせるよう、一人一人の個性に合わせたケアを目指し、コミュニケーションを大切に、職員との会話を楽しんでもらえるように努め、笑顔ある施設です。
また、利用者と職員が同じ空間の中でゆっくりと穏やかに家庭的な生活を送れるよう努めています。今年には施設横にミニ菜園を作り、元農家の利用者から、除草や栽培に関するアドバイスをもらいながら、春の苗植えから秋の収穫までを行い、毎日の楽しみごとを持ってもらう事で、張り合いのある生活を送って頂きました。
そして毎日の食事の中で、収穫した野菜を利用者、職員と一緒に食べる事で、喜びを共有できた一年でした。
健康面に関しては、医療連携先との密な連携により、身体面における変化に早期に気付き対応する事で、病状の悪化防止に繋げ、安定した生活を送ることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、代表者の交替から1年が経過しています。改善すべき案件は、内容によって運営推進会議のメンバーや家族の方々の意見も参考に職員全員で取り組み、ホームのさらなる質の向上に繋がっています。現在、非常時における地域との協力体制について町内会と話し合いが行われており、職員は地域の重要性を認識しています。利用者は高齢化に伴い介護度や医療依存度が高くなり、以前のような活動が困難になっていますが、職員は言葉遣いなど優しい対応を心掛け、利用者が安心して毎日の生活が送れる支援に努めている「グループホーム ぶどうの木」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なかなか地域と関わる機会は少ないが、職員一人一人が理念を掲げ、事業所全体の理念作成に関わり、実践に向け取り組んでいる。	理念を見直す機会があり、職員全員で検討が行われましたが、地域密着型サービスでの基本的な意義が集約されている現行理念を継続して掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては、町内会に加入しており、地域から完全に孤立しないよう取り組んでいる。利用者の高齢化、活動性の低下から地域活動には参加できず、回覧板や定期的な町内清掃などの活動には職員が参加し、交流に努めている。	利用者の高齢化に伴い、以前のように夏祭り等の町内会行事に参加することは困難になっています。職員は町内会の清掃活動に参加したり、駐車場を町内活動の場として提供するなど、ホームとして出来得る事を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族へは来所時や電話での連絡など都度、実践や関わりなどを伝達している。また、運営推進会議を通じて地域の方へグループホームの周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービス状況などを伝え、参加している方々から意見を伺い、参考にしている。	運営推進会議は、地域の方や知見者、家族、地域包括支援センター職員の出席を得て年6回の開催を計画しています。運営状況報告後に災害対策等について意見交換が行われ運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との連携も取れており、良好な関係を築いている。	管理者は、運営推進会議の議事録や報告書等の書類を提出する際に直接担当窓口に出向きホームの実情を伝えています。課題に対してアドバイスや意見を頂き運営に反映させています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関施錠に関しては利用者の安全確保のため家族の理解の上で内扉のみ施錠しており、様子を見ながら外出支援、介助を行っている。	職員は、会議や日常業務の中で身体拘束廃止の意義を理解しています。課題であった玄関の中扉の施錠については、家族と話し合い、理解をいただいて施錠していますが、利用者は職員の見守りの下、自由に出入りしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止研修会に参加しており、今後内部研修に活かしていく予定である。業務の中で、職員間で注意し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一定の知識はあるものの、全体への周知は不十分であるため、今後は皆で学ぶ機会を持ち必要に応じて支援していける体制を作っていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者及び計画作成担当者が同席し、入居または退居に関して家族への説明や質問に対し不明な点はないか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々意見や要望がないか留意している。ご家族においては来所の際や運営推進会議の場を活かして確認させて頂いており、意見や要望などがあつた際は参考にし、運営に反映させている。	利用者の生活状況は、家族来訪時やメール、電話、利用料請求書送付時にコメントを付けるなど詳しく報告しています。関わりの中から得た利用者や家族の意見に対しては早急に改善策を検討し、内容によってはケアプランに反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見を表出しやすいよう、聞く雰囲気づくりに努めている。出された意見は反映できるよう努力している。	代表者は定期的にホームを訪れています。管理者は職員の要望や意見を傾聴し、働きやすい環境作りに努めるなど働く意欲に繋げています。提案を受け、利用者の身体機能維持のための器具を導入しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者以下運営は職員の状況を把握し、高い意識を持って働ける環境を構築しようと努めている。また、給与面での待遇や勤務時間の融通性、労働条件も以前に比べ向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ケア会議の中でその時々利用者の状況に即した研修を行っている。また、資格取得時などには、それに合わせて勤務を優先的に調整する支援がされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は定期的に地域包括支援センターが主催する「グループホーム交流会」に参加し、ネットワークづくりを行い、他事業所の良い取り組みを取り入れ反映させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の希望とご家族の要望等は利用開始前のケア会議等で確認し合い、また、ご本人の話にはよく耳を傾け、不安や困りごとに対し安心して頂けるよう日常会話を多くし、早期に信頼関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設の見学、体験入居を行い、家族の不安や要望にできるだけ早く対応できるように取り組んでいる。面会時や電話などで連絡を取り合い、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の前段として体験入居を実施している。それを踏まえた上で、ご本人、ご家族、担当ケアマネジャー等を交え、他サービス利用の検討も行った上で入居を判断している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的に活動性が低下しているため、協力し合う事は困難になっているが、生活に寄り添う意識を持ち、個々の能力を理解して共に暮らすという視点で支え合い、信頼関係を築いている。今年は農作物の栽培を通じて、支え合いながら活動に取り組む事を共有できた。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話で近況を報告、時に相談し、家族の意向を聞き、思いを取り入れるようにし、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来られる事は多くなく、活動性低下のため、その場所へ行く事も困難だが、来所の際はゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。また、ご本人が思い出したり忘れる事がないように、思い出でや仕事をしてきた時の話を聞かせて頂いている。	家族の来訪は頻繁にあり、寛げる環境づくりに努めています。家族が利用者の友人を伴って面会に訪れることもあります。職員は利用者から昔話を傾聴するなど、これまで培ってきた生活歴の共有に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で相性を見て席を決めたり、職員が仲介し、コミュニケーションが取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にしたいと思っている。必要時には相談や支援を行いたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向の把握に努めている。表出が困難な方には、御家族からの情報や、表情、行動、観察をヒントに意向の把握に努め、都度検討している。	利用者が暮らし方の要望を表すことは多くありませんが、職員は関わりの中や家族からの情報をもとに、利用者の思いは何なのかを常に念頭に置き、ケアサービスに取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに加え、家族来訪時などに常に継続して情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い体調の変化を確認している。また、日々の申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し、利用者一人一人の状態を総合的に把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜状態変化時に、ご本人、ご家族、職員と話し合い、必要時には主治医、看護師に意見を仰ぎながら、計画を作成し取り組みを行っている。	ケアプラン作成時は、関わりの中で得た利用者や家族の意見や要望を基に医療関係者の意見を踏まえ、職員全員で利用者にとって最適な内容になるよう検討しています。	介護記録には、利用者の言葉や動作などを詳細に記録していますが、ケアプランとの連動が十分ではなく書式の工夫を検討していますので、その実現に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録に日々の状態や様子を記録し、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に一度、面会時に泊まっていられるご家族や、進行する宗教を大切にもらい仏壇を持ち込まれ、必要に応じて活動を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や地域包括支援センターなどとの連携、また、交通安全運動活動の際には、当ホームの駐車場を拠点として提供するなど、地域資源との協働を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し、納得されている医療機関への受診を行っている。また、かかりつけ医との関係を築き、状態変化時の報告をすることで、早期の対応を取ることができている。	医療依存度が高くなっていますので、利用者や家族の同意を得て月2回往診してもらう協力医を主治医としています。他科の受診は、家族の協力も得ながら管理者が同行しています。週1回の訪問看護師による健康チェックも行われ、利用者の健康状態は関係者の共有としています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月の全体往診に加え、個別往診も一度以上入っている。また、毎週の看護師訪問、24時間オンコール体制であり、常に適切な指示を受けられる状態にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報交換や相談、連携に努めており、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と「看取りに関する覚書き」を作成し、当ホームでできること、できないことを個別、及び運営推進会議等で説明し、医療連携機関と共に確認、共有している。	契約時に、利用者や家族と終末期の生活支援に関する覚え書きを取り交わしています。重篤時には看取りに関する指針を説明し、同意書を得ることとしています。職員は、知識や技術の向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練は現在行っていない状況であり、今後実施していきたいと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の定期訓練を実施。町内会に防災組織があり、その一員としての協力体制がある。	定期的に消防署員の立ち入り検査を受けています。年1回、町内会の防災訓練に参加し地域との協力体制づくりに努めています。年2回の避難訓練を計画し、夜間想定訓練を実施しており、3月に2回目を予定しています。	当ホームは市のハザードマップの対象区域に位置していることから、行政、町内会とのさらなる協力体制の構築、連絡網への町内会住民の登録依頼、避難場所と経路の確認、同時にそれらを家族に周知、災害備蓄品の充実等の取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際には本人の禁忌を職員が共有してプライバシーに配慮し、常に笑顔で対応できるよう言葉遣いや態度に留意している。	名前の呼び方は利用者の意向を尊重しています。排泄時や入浴時は同性介助を基本としています。不適切な対応時には、管理者はもとより職員間でも注意し合える環境になっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい選択肢を提示し、自己決定ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	場合や状況により結果として職員側の都合となってしまう時もあるが、できるだけ希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に自分の好みの服を選んでもらったり、本人の希望がわからない場合は、ご家族と話を参考にして。定期的に散髪を行い、ご家族に美容師の方がおり、毛染やパーマをかけたりされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	活動性の低下から一緒に作業できる人は少ないが、食べたい物を聞いたり、彩りや季節感のあるメニュー作りに努めている。また、個人の状態に合わせた食事形態の提供や、できる範囲で下膳をしてもらっている。	献立は前日と重ならないように気をつけながら、利用者の要望を聞き食事作りを行っています。栄養バランスについての検討をしています。食事支援に徹するため職員は一緒に食事を摂っていませんが、おやつ時間は食卓を共にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼、嚥下状態により個々に合わせて刻みやトロミを付けたりして提供している。食事、水分ともに記録し、摂取が少ない方には補食や摂取時間の変更、栄養補助食の活用などとして、栄養を補えるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じた口腔衛生支援を行っている。残差が多い人には毎食後の口腔清拭を実施。就寝前は義歯洗浄を行い、週2回洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮して個別に対応している。現在オムツ使用者はなく、リハビリパンツについてもご家族と検討、選択し、排泄物に異常がないかも確認している。人により個別の記録もつけている。	職員の支援により布の下着の着用が可能になった利用者もいます。衛生用品の使用は、家族と相談して決めています。食材にも工夫し、トイレでの排泄がスムーズに出来る支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつには果物とヨーグルトを提供し、食事メニューにも排便を促す食材を使用するなど工夫している。必要に応じて医療機関と相談、連携し、適切な薬剤投与も行いながら、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調に合わせて実施している。曜日、時間を原則として決めているが、本人の希望に沿えるよう努めたい。	毎日入浴出来る体制を整えていますが、午後の時間帯に週2回を目安に入浴支援を行い、職員は利用者の話や歌を聞いています。利用者の要望があれば午前中の中の入浴も可能です。家族と一緒に銭湯に出かける利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人その日の体調や気分に沿って安眠、休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全ての薬の目的、副作用、用法、用量を全職員が把握できるよう、処方箋綴りを誰でも、いつでも閲覧できる場所にある。また、薬の増減で変化があった際などは、都度主治医に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ミニ菜園での関わりや、天気の良い日の日光浴、散歩の同行支援を実施。嗜好品では、喫煙、飴や栄養ドリンク、缶コーヒーといった物が楽しみの一つとなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方が行きたい時に散歩に同行したり、全員ではないが、家族と協力して外出や外食、温泉へ行かれたりしている。	利用者の高齢化や介護度の高さもあり、外出の希望は少なくなっていますが、近所を散歩したり玄関前のベンチでの日光浴、ミニ菜園での草取り、ドライブを兼ね近所の桜並木の見物等で気分転換を図っています。	利用者の外出希望は少なくなっていますが、日常的な外出や年間の外出行事を計画し、利用者の五感刺激や生活機能維持に繋がる取り組みを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の困難な方が多く、金銭はあっても使える場面がないのが現状。紛失防止のため、ロックのかかる場所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話や手紙の読み書きが理解できない方も多い。電話が可能な方には、その都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節に合わせたタペストリーや写真を飾り付けて居心地良く過ごせるよう工夫している。また、大人の生活空間として、幼稚になりすぎないように配慮している。共有スペースは、採光や換気、温度、湿度に配慮しながら清潔に保てるよう心掛けている。	共用空間は、快適な生活空間になるように採光や温湿度、清掃等に配慮があり、さらに居間には、節分に因んだ飾り物や利用者の写真が貼られています。居間と一体化している台所からは、食欲をそそる匂いが立ち込めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの各場所にソファや椅子を配置して、その時の気分に合わせてテレビを観たり、畑を観たりして、パーソナルスペースとしてゆっくり過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇など持参して頂いている。家族の写真や部屋に飾るなど、これまでの生活と変わらない雰囲気の中で生活できるような環境作りに留意している。	居室は、1階と2階に分かれています。使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれ、利用者や家族の意向が尊重された居室作りになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じて危険がないよう手すりを使ってもらったり、洗面所の明りを常時点けたり、可能な限り安全に配慮した見守りや介助を行っている。より自立支援に繋がるよう努力していきたい。		